

# 親の心得十カ条

- 1 躰は家庭教育が基本。人との接し方、身の回りの整理整頓
- 2 三つ子の魂百まで。幼い頃に注がれた「愛情」は、後々まで効果を発揮する。
- 3 早く自立を促す。墓場まで一緒に生きてはいられない。  
やがて、自分の力で生きていかななくてはならない。早い子離れを。
- 4 子供と同じ目線では、大局は見えてこない。  
「木」の上に「立」って物事を「見」るのが「親」。
- 5 与えすぎは根を腐らせる。甘やかして温室育ちでは、社会の冷たい風に負けてしまう。
- 6 自分の子しか見えない親からは、自分のことしか考えない子が育つ。  
人を思いやることや優しさが育たなければ、孤立し、孤独な人生になっていく。
- 7 「愛情」に勝る教育はない。ただ、その「愛情」をはき違えない。  
「甘やかし」「手のかけすぎ」「言うことを聞いてやる」ことは、愛情とは違う。  
愛情表現は難しい。言葉や物などはなくても、真の愛情は伝わるもの。
- 8 不幸せな親から、幸せな子供は育たない。  
子供を幸せにしたければ、親である自分が幸せでいられる努力をすること。
- 9 子供は親の後ろ姿を見て育つ。子は親の鏡。子供は親の言うとおりにせず、親のするとおりにする。  
親が子供を毎日評価しているように、子供も毎日親を評価している。
- 10 他人と過去は変えられないが、未来と自分、そして我が子は変えられると信じる。  
親自身が将来に希望を持ち、前向きになる。決して、投げずに、あきらめないこと。  
子供を変えたいと思えば、まず自分から変わること。

本質的に素直な子供達ですから、「こういうことを見過ごしているとうようになってしまうんだよ。」と事をわけて冷静に説明すれば子供達は必ずわかってくれると思います。最近読んだ本にこんな事が書いてありました。「最近、親は子に、教師は生徒に、礼儀を教えることをためらい無礼をたしなめることを遠慮している。しかしながら、心とともに体を備えている人間において、礼儀は、人間の持つ真の人間らしさの表れととらえるならば、己に打ち克つ力がないかのように他人を見ることは決して正しいことではない。」と。まさに躰とは身を美しくするものですから、時には大人として親として教師として子供に向けて毅然とした態度が必要だと思えます。

「人と接するときは、春のような暖かい心で、仕事をするときは夏のような熱い心で、ものを考えるときは秋のような澄んだ心で、そして自分を見つめるときは、冬のような厳しい心で！」

学校を、担任の先生を信用して、何かあったら何でも相談してください。子供の健やかな成長を願っているのは、学校も親御さんも一緒です。一緒に、協力して、お子さんを育てていきましょう。